

平成29年 3月 8日

平成29年度 自動走行実証推進事業への応募申請書

市町村名	刈谷市	
連絡先	部署名	都市政策部都市交通課
	担当者役職・氏名	技師 久米 正宏
	電話番号	0566-95-0004
	FAX番号	0566-23-9331
	メールアドレス	tokou@city.kariya.lg.jp

○ 本事業への応募理由

本事業への応募理由、狙い等について、自動走行システムへの期待やそれを活用することにより解決すべき行政課題を含めて記載してください。併せて、実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等も記載してください（今年度実施した地域におかれては、その点も踏まえて記載してください）。

テーマ；刈谷ハイウェイオアシスと自動運転車を利用した高齢者などの買物支援

(1) 実証地域（ルート）において、自動走行システムを活用することにより、解決すべき行政課題（高齢者対策、交通不便地対策、観光振興対策等）が存在すること。

刈谷市北部の刈谷ハイウェイオアシスは、セントラルプラザ、コンビニエンスストアなどの商業施設を有しており、販売品目として日常使いの食料品、惣菜、パン、おさかな、産直市場で野菜などを販売しています。

一方で、刈谷ハイウェイオアシス周辺は市街化調整区域で、住宅集落地と商業施設までの距離が遠い状況にあります。

市のコミュニティバスは、北部地域で2路線あるものの、道路事情によりバス路線の通っていない地区が点在しています。しかし、市のコミュニティバスは、年間利用者が朝夕非常に多いことから、バスの小型化は難しい状況にあります。そのため、都市基盤未整備地区に居住する高齢者の買物利便性の向上が課題となっています。

(2) 実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等が明確なこと（市町村のまちづくり計画等への位置付けや、市町村や地域の交通事業者等との関係者が連携し施策を具体化する体制の構築が見込まれることなど）。

刈谷市都市交通戦略では、地域の生活交通路線として、地域の生活ニーズに応じた路線として、市民の生活パターンに応じ設定するものとしています。

実際、現在のバス路線は、バスの乗り継ぎなしに、地域の公共結節点を経由し、様々な生活機能が集積する中心市街地に乗入れ、世代、年齢、性別を問わず生活の利便性を確保しています。

しかし、刈谷ハイウェイオアシス周辺は、集落地の規模が大きく、家屋と家屋の距離も長く、バス停から遠くに居住する自動車の運転をしない高齢者は、バス利用ができる環境にあるものの、日常生活における買物の負担が大きいものと考えております。

そこで、今回、刈谷ハイウェイオアシスのセントラルプラザの販売品が日常生活における食品等があることから、都市基盤未整備地区への自動走行車の導入により、居住する高齢者の買物関係の負担を軽減し、生活における買物はじめ移動の利便性を向上するものです。

また、実証ルートは、刈谷ハイウェイオアシス西側の地区を将来の対象地区と想定し、刈谷ハイウェイオアシス西側、第4駐車場から公共施設連絡バス停のある区間を設定しています。

(スペースは適宜広げて記載してください)

○ 実証実験実施場所、ルートの詳細

以下の点を記載及び地図に明示してください。路線内にある信号交差点、起点・終点場所、主要な施設（駅、病院、公共施設等）を示してください。

1 ルート（起点→終点）

起点：第4駐車場 → 終点：刈谷ハイウェイオアシスバス停

2 ルート（地図）



3 地理条件（既存のバスルートの有無、運行本数や地域の状況等を記入）

バスルートにはなっているが、今回起点としている第4駐車場では停車しません。

4 道路条件（募集要項も参照のこと）

項目名	内容
路線距離	片道約500m
車線数	片側1車線（中央分離帯なし）白線一部劣化
道路構造	歩車分離（片側歩道でガードレールあり）、勾配あり
道路種別	公園管理道路（公共施設連絡バスと刈谷ハイウェイオアシスへの物資搬入路としての利用のみ）
トンネル、踏切	ともに無し
交通量	一般車両の通行はなく、利用者は公共施設連絡バスと刈谷ハイウェイオアシス施設への物資搬入のみ
交差点	なし
起点・終点	起点：第4駐車場内 終点：刈谷ハイウェイオアシスバス停ロータリー 駐停車場所、モニター調査実施場所の確保可能
その他特記事項	保安誘導員等設置により、閉鎖空間確保の実績あり

5 写真（次のものを貼り付けてください。Google ストリートビューなどでも可。容量はワードファイル全体で5MB以下としてください。）

(1) 道路の様子（主要地点数カ所）

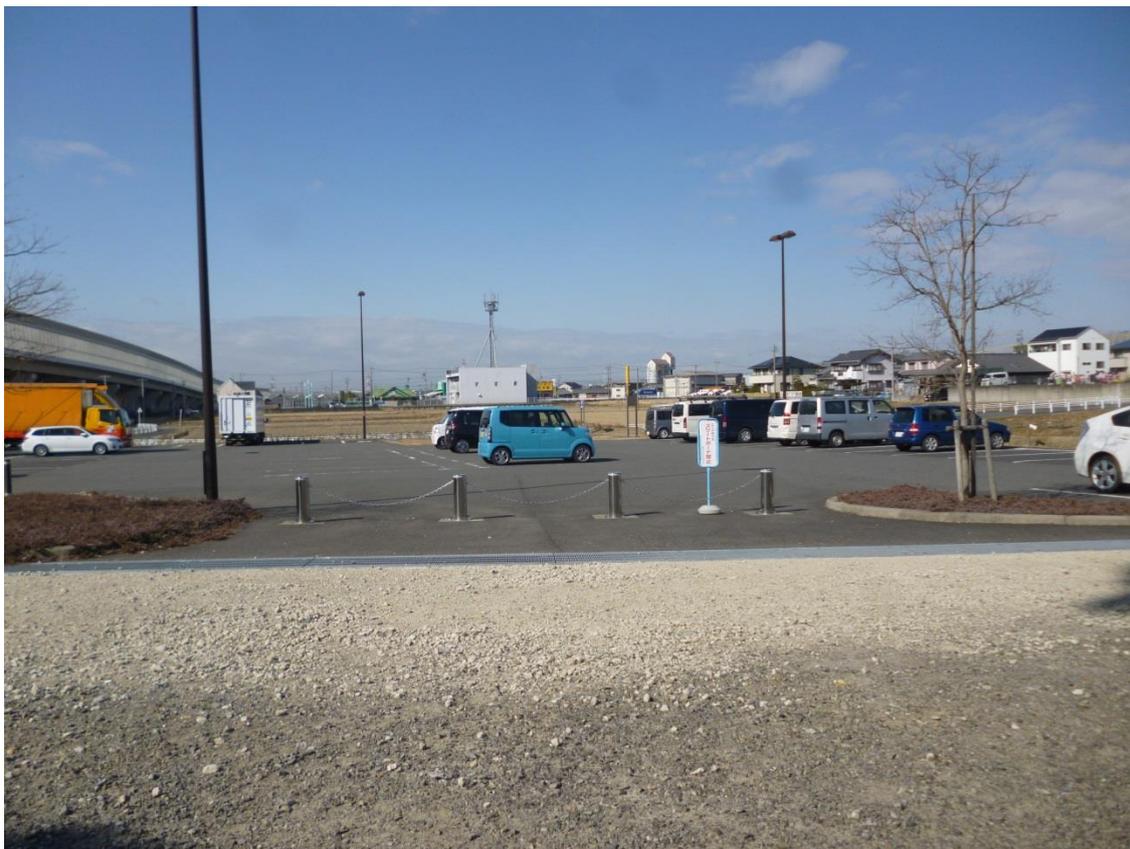






(2)、(3) 起点、終点場所（駅、公共施設等）、車両待機場所

起点：第4駐車場



終点：刈谷ハイウェイオアシスバス停ロータリー



6 高精度3Dマップの有無

有

7 貴自治体における自動走行に関連した独自の取組（実績、平成29年度の予定・予算措置状況等）

（1）本市の取組予定と平成28年度の実績について

平成28年度の自動走行車の実証実験では、本市も全面的に協力させて頂いております。県の自動運転実証実験の実施に合わせ、隣接小学校に通学し次世代を担う小学生に対して、自動運転技術の進捗や交通安全が向上することを実感して頂きました。また刈谷ハイウェイオアシスではオープンスペースを利用しPRイベント等の開催などにつきまして、関係者等との調整、予算措置（補正予算を含め）を講じております。

なお、実証ルート起点とした刈谷ハイウェイオアシス株式会社より、平成28年度の自動走行実証実験や試乗会では全面的な協力を得ております。また、刈谷ハイウェイオアシス会社より、機会があれば是非「刈谷ハイウェイオアシスで実証実験を行ってください」との声も頂いております。

 毎日新聞

自動運転車 市民試乗「ここまで進んでいるとは」 刈谷で実験 / 愛知

毎日新聞 2016年12月1日 地方版



乗用車の自動運転実験と市民の試乗会が、刈谷市東境町の刈谷ハイウェイオアシスで行われた。県が今年度中に15回実施する実験の8回目で、市民に自動運転の実感や技術に触れてもらう狙い。

実験では、測量技術開発会社のアイサンテクノロジー（名古屋市中区）が開発した自動運転システムを車に搭載。高精度3Dマップやレーザーレーダー、カメラなどで沿道の車両や人間、障害物を感知し、信号や標識を識別しながら、2・3キロの公道を走った。万一に備えて運転席に1人座ったが、全く操作せずに済んだ。

市民の試乗会では、森岡仙太副知事や竹中良則・刈谷市長、親子連れなど28人が参加した。1回2人ずつ乗り、敷地内の約1キロを自動運転で走行した。

試乗した親子は「ここまで進んでいるとは思わなかった。市販されたら、ぜひ乗りたい」と話した。【安間教雄】

(2) 平成29年度の愛知県自動走行実証実験とのコラボレーション企画について

自動走行実証実験のルート沿線で、刈谷市内の企業の協力を得て、愛知県の自動走行と同時以下の先端技術を来場者に提供する。

●民間企業と大学とのコラボ（調整済、時期は夏以降、面白い技術は秋口以降）

- ・自動車安全最新先端技術等の試乗等により、技術の啓蒙を図る
- ・事故の多い交差点における交通安全確保に向けて、ITS技術を活用した実証実験の実施
- ・研究機関による自動走行実証実験の実施 などを予定。

8 その他参考資料（ある場合は添付）

●本市における自動車の先端技術への平成28年度までの取組状況

(1) 自動走行関係

- ・名古屋大学へ実験場所の提供

実施者；名古屋大学

実施日；平成29年1月25日から2月1日（今後も継続実施の予定）

実施場所；刈谷市ミササガパーク 調整池

(2) 交通安全関係

①ゾーン30内の交通安全対策

- ・車速センサーを活用した電光表示板を活用した制限速度30km/hの遵守率の増加

実施者；愛知県ITS推進協議会、刈谷市、豊田都市交通研究所

実施場所；刈谷市東刈谷町地内

実施経過；ア) H26.7.12～h27.9.6 愛知県ITS推進協議会等による実証実験

イ) H27.7月～ 道路に狭さくを設置 刈谷市継続利用

ウ) H28.1～2月 時間経過に伴う効果の持続性調査（刈谷市）

②交差点における交通安全の確保

- ・ 自転車、自動車の検知機を交差点に配置し、「止まれ」の標識や「停止線」に発光体を取り付け、センサーの反応により、自動車や自転車の一時停止の遵守率を向上させ、交通安全を確保。

実施者；研究会（デンソー、刈谷市、豊田都市交通研究所他）

実施場所；刈谷市東刈谷町、小垣江町

実施経過；ア) H28. 2 ～ H28. 7 月 実証実験

イ) H28. 7 月 継続利用

ウ) H28. 12 月 効果検証